

今号の主な内容	
3面	長寿(後期高齢者)医療制度
4面	新宿中央公園夏祭り
4面	新宿ちびっこ漫オグランプリ
5面	住まいの耐震フェア
7面	9月の各種相談
8面	新宿区名誉区民を紹介します



★区のサービス・手続き・施設案内は「しんじゅくコール」
☎ (3209) 9999 (午前8時～午後10時)

発行 新宿区 編集 区政情報課 (毎月5・15・25日発行)
〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1 ☎(3209)1111
ホームページ http://www.city.shinjuku.tokyo.jp/

平和の大切さを次の世代へ

新宿区平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。
私たちは、世界で唯一の核被爆国民として、自らも戦火を受けた都市の住民として、戦争の惨禍を人々に訴えるとともに、永遠の平和を築き、この緑の地球を、次の世代に引き継ぐ責務がある。
国際平和年にあたり、私たちは、人類の生存に深刻な脅威をもたらす、すべての国の核兵器の廃絶を全世界に訴え、世界の恒久平和の実現を心から希求し、ここに新宿区が、平和都市であることを宣言する。

昭和61年3月15日

新宿区

語り継ごう平和への願い

今日8月15日、日本は終戦から63年目を迎えました。

先の戦争では、日本全土に及んだ空襲、沖縄の攻防戦、広島・長崎への原爆投下などで、多くの国民が犠牲になりました。その一方、アジアの国々に戦火による大きな被害を残しました。

現在の繁栄からは、こうした悲惨な出来事を想像することはできず、また、戦争を知らない世代が増える中で、戦争の記憶も風化しつつあります。しかし、世界では、今も民族や宗教の違いによる紛争が絶えず、たくさんの人が希望を抱くことができない現実があります。

現代に生きるわたしたちの責務は、戦争の悲惨さ、平和の大切さを次の世代に語り継ぎ、平和の意義を深く考えることです。

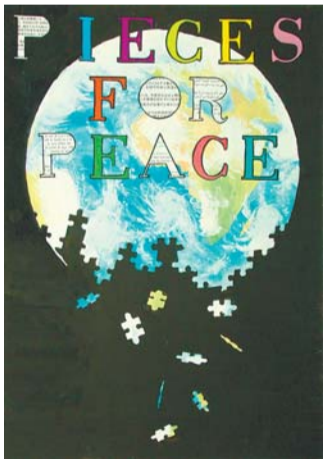
今回は、平和のポスター・平和派遣など区の平和事業のほか、新宿区内での空襲の様子を紹介します(1・2面)。世界の恒久平和の実現のため、みんなで力を尽くしていきましょう。

【問合せ】総務課総務係(本庁舎3階) ☎(5273)3505へ。

平成20年度

平和の ポスター 最優秀作品

区立小・中学校の小学4年生～中学3年生を対象に、毎年「平和のポスター」を募集しています。今年の応募総数は1067点で、その中から最優秀賞7点、優秀賞27点、優良賞53点、佳作60点を選びました。最優秀賞の7点を紹介します。小・中学生の平和への想いが感じられる素晴らしい作品です。



藤井蓮さん
(牛込第三中学校3年)



高野亜紀さん(津久戸小学校6年)



岡村梢さん(落合第二中学校1年)



遠藤大樹さん(新宿中学校2年)



田中亚実さん(落合第五小学校4年)



七夕あかりさん(西戸山中中学校2年)



鈴木美玖さん(鶴巻小学校5年)

区長
中山 弘子
なかやま ひろこ

暑い夏の日差しとともに、63回目の終戦記念日がめぐってきました。戦争を遠く過去の出来事と感じる若者も多くなっています。新宿のまちのほとんどが昭和20年の4月・5月の空襲で焼失したつらい記憶も、風化しつつあります。▼新宿区では平和都市宣言を行い、平和への願いを皆で共有できるよう努力しています。そうした中、今回、大宅壮一ノンフィクション賞を受賞した「あの戦争から遠く離れて 私につながる歴史をたどる旅」(城戸久枝著)は、若い世代が戦争を描いた力作で、感じるどころが多くあります。▼命がけで、文化大革命の嵐が吹き荒れる中国から帰国した中国残留孤児を父に持つ著者が、「ある出来事」をきっかけに父の育った中国を知るための留学を決意。それまで、日本と中国の戦争について自分の問題として考えることはなかった若者が、自分につながる父の波乱の半生への歴史をたどることで、若い世代ならではの感性で戦争を見つめています。▼戦争を経験した人々とはまた違う、現代から「あの戦争」を語る作品が出てきたことは、多くの人々への大きなメッセージになると思います。戦争についての記憶が風化しつつある今、若い世代が遠い日の戦争や自分につながる歴史を書くことに、私は希望を感じています。

コラム 新宿 まち・人・しごと